

各関係機関長 様

熊本県病虫害防除所長

普通期水稻のいもち病の発生状況（技術情報第10号）について（送付）

このことについて、下記のとおり取りまとめましたので、防除指導の参考としてご活用下さい。

記

普通期水稻で、穂いもちの発生が多くなる可能性があります。防除を徹底するとともに、発生が多い場合は追加防除を行いましょう。

1 発生状況および今後の状況

- ア 普通期水稻における8月の巡回調査では、葉いもちの発病株率が4.2%（平年3.5%）と平年並の発生であった（図1）。
- イ 中山間地および一部品種では、葉いもちが多発しているほ場が見られる。
- ウ 出穂時期にあたる8月4半旬以降、降雨が続いており、穂への感染に好適な条件となっている。
- エ 向こう1ヶ月の天候は、気温が平年並、降水量が平年より多いと予想されており、本病が多発して増加しやすい気象条件である。

2 防除対策

- ア 穂いもちは、発生後の防除が困難であるため、予防防除を徹底する。
- イ 葉いもちが上位葉に発生している場合や、降雨が続く場合は、穂揃い期の7～10日後に追加防除を行う。
- ウ 農薬を使用する際は、必ずラベルなどで使用方法を確認し、登録がある農薬を使うとともに、収穫前使用日数や使用回数、希釈倍率等を遵守する。

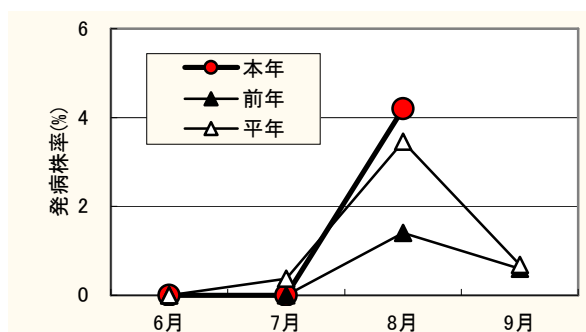


図1 普通期水稻における葉いもち発病株率の推移

※なお、本文はホームページ「<http://www.jppn.ne.jp/kumamoto/>」上に掲載しています。

熊本県病虫害防除所（熊本県農業研究センター
生産環境研究所病虫害研究室 予察指導係）
担当：東 TEL 096-248-6490